平成 31 年度 東京都内湾水生生物調査 1 月稚魚調査 速報

●実施状況

令和 2 年 1 月 24 日に稚魚調査を実施した。天気は晴れで、気温は 11.7~13.1℃、調査地点は 北東の風 1.5m 前後であった。調査当日は大潮で、満潮は 4 時 09 分、干潮は 10 時 47 分であった(気象庁のデータ)。

出現した魚類の種類数、採取された個体数ともに、今年度で最も少なかった 12 月調査よりも増えていた。とりわけ、スズキやキチヌ、アユの稚魚が多く採取された。採取されたアユの稚魚は、12 月調査時よりも大きくなっていた。

	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
作業時刻	10:20-11:10	9:00-9:56	11:40-13:00
水温(℃)	12.2	11.7	12.5
塩分(−)	22.1	28.0	23.1
透視度(cm)	>100	>100	>100
DO(mg/L)	7.1	7.1	8.2
DO飽和度(%)	77.4	78.5	88.6
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(-)	7.4	7.7	7.7
水の臭気	無臭	無臭	無臭
備考	干潮の前後に調査を行った。 潮位は高く、干潟は干出しな かった。	下げ潮時に調査を行った。オリンピック準備の都合上、普段の調査地点は立入禁止になっていたため、管理棟をはさんで反対側で実施した。	上げ潮時に調査を行った。

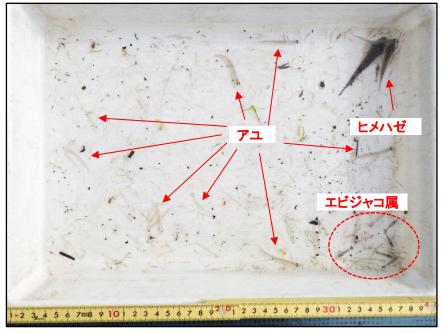
●主な出現種等 (速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	アユ(c)	ニクハゼ(+)	スズキ(+)
	マゴチ(r)	ヒメハゼ(+)	エドハゼ(r)
	スズキ(r)	アユ(r)	チクゼンハゼ(r)
	ヒメハゼ(r)	スズキ(r)	アシシロハゼ(r)
		チチブ(r)	ヒメハゼ(r)
魚類以外	ニホンイサザアミ(m)	エビジャコ(+)	ニホンイサザアミ(c)
	エビジャコ属(+)	シラタエビ (r)	クロイサザアミ(c)
	ニホンドロソコエビ(r)	ワレカラ類(r)	シラタエビ(+)
備考	特になし	特になし	特になし

<u></u> 注)表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

城南大橋 採取試料







城南大橋西詰めにある干潟。北側には東京港野鳥公園がある。

●主な出現種等

※写真のスケール 1 目盛:1mm





川を遡上する前の稚魚で、海で生活する間は体の透明感が強い。産卵は 夏から秋に河川中流の砂礫底で行われ、孵化後卵黄を吸収しながら海に 流下する。干潟域は河川を遡上する前に利用している。城南大橋では、 3cm~6cm 程の個体が採取された。採取時に、アユ特有のスイカの香りが した。

マゴチ



内湾や河口域の水深 30m 以浅の砂泥底に生息する。産卵期は 4~7月。成長するにつれて徐々に深場へと移動する。9月調査時に採取された個体は5cm前後であったが、今回は10cm程の個体であった。



全長は 9cm 程になる。内湾や河口域の干潟域の砂底や砂泥底に生息する。危険を察知すると砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色によく似ている。

エビジャコ属



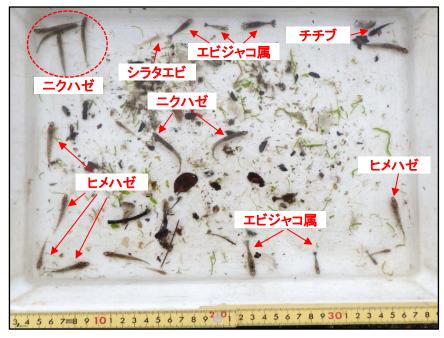
内湾の砂泥底に生息し、普段はごく 浅く潜って隠れている。 体色は周囲 の環境に合わせて変化する。 小さな 体の割に獰猛で、魚類の稚魚等を 捕食することが知られている。

ニホンドロソコエビ



体長 1~2cm 程になるヨコエビの仲間。砂底や砂泥底の表面近くにトンネルを掘って生活する。東京湾では最も普通にみられるヨコエビ。

お台場海浜公園 採取試料







レインボーブリッジのたもとにある人工の 渚。普段の調査地点が立入禁止になっ ていたため、12 月調査同様に 100m 程 西側で調査を行った。

●主な出現種等

※写真のスケール 1 目盛:1mm

チチブ



内湾や河口域に生息し、泥底から砂泥底にある転石やカキ殻の間や下などに多くみられる。雑食性。戦後、水質悪化のために一番早くに姿を消したと言われている。

ニクハゼ



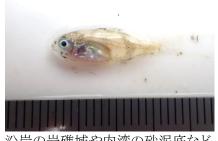
体型のよく似たハゼ科の2種である。 両種ともに体長6cm程まで成長する。 これらの2種は口の大きさが異なって おり、ニクハゼの口の後端は目の後端を越える一方、ビリンゴの口は小さい。

スズキ



東京湾を代表する魚種で、東京湾は全国有数のスズキの産地である。 ハゼ科稚魚や甲殻類を食べながら 急速に成長し、1年で20cmほどになる。成長に伴いセイゴ、フッコ、ス ズキと呼ばれる出世魚。

キチヌ



沿岸の岩礁域や内湾の砂泥底などに生息する。東京湾の干潟域では、10~11月に9~17mmほどの仔稚魚が採集されている*1。

*1:河野博 (2011) 東京湾の魚類 平凡社

シラタエビ



スジエビ類よりも大型で、体長7cm程になる。汽水域に生息しており、触角が青いことで多種と簡単に見分けられる。本調査地点では、5月調査を除き必ず採取された。

ワレカラ類



小型の甲殻類で、ヨコエビと近縁。海藻やアマモなどにくっついて生活しており、藻場を利用する幼魚の重要な餌となっている。

葛西人工渚 採取試料







東京湾奥にある広大な人工干潟。 野鳥等保護区域のため、一般の立ち 入りが禁止されている。

●主な出現種等

※写真のスケール 1 目盛:1mm

スズキ



※解説はお台場海浜公園を参照。 葛西人工渚で多くの稚魚が採取された。成魚になると65cmを超える本種の生まれたばかりの姿である。

ヒメハゼ



ヒメハゼ:解説は城南大橋参照。

アシシロハゼ: 体長は 5cm 程になる。小型の甲殻類を食べる。 これら 2 種は非常によく似ているが、上から見たときに頭部に V 字の模様が あり、背びれ上に黒色斑のある個体がヒメハゼである。

エドハゼ



全長 5cm程で、細長い体型のハゼ科の2種である。チクゼンハゼは、エドハゼに比べて体側の暗色横斑が濃い(トラ模様)という特徴がある。チクゼンハゼの名前の由来は、標本が採取されたのが筑前(福岡県)だったことに起因する。

ヒモハゼ



体はミズのように細長く、体側には暗色の縦帯が走る。全長 4cm程。アナジャコなどの甲殻類の巣穴を、産卵場や隠れ家として利用する。主に小型甲殻類を食べる。

クロイサザアミ



汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間ではない)。河口域で春に大量発生し、魚類等の餌として重要である。ニホンイサザアミは体長10mm程、クロイサザアミは体長15mm程になる。